

学校における福祉教育（福祉体験学習）に関する アンケート調査結果について

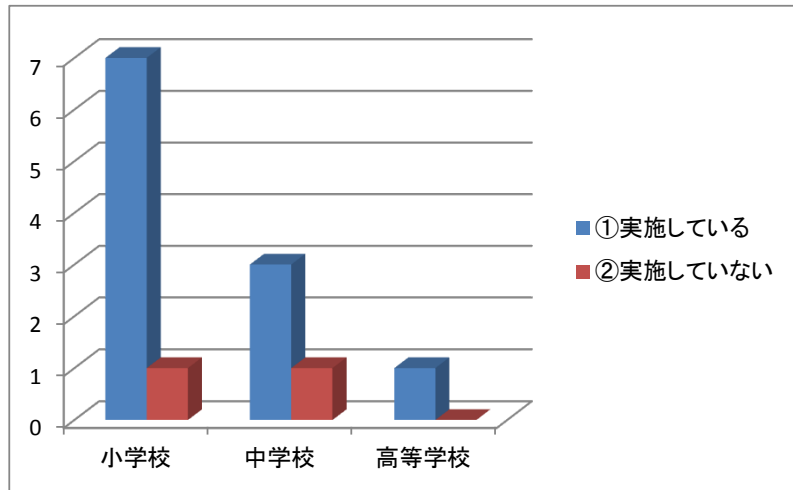
平成28年6月1日
社会福祉法人南部町社会福祉協議会

1. 調査の目的
南部町内の各学校における福祉教育の取り組み状況や課題、今後の取り組みに向けた希望等を把握し、今後の福祉教育の充実を図る。
2. 調査対象
南部町内小学校8校、中学校4校、高等学校1校 計13校
3. 調査項目
 - (1) 福祉教育実施の有無
 - (2) 実施している（実施していない）理由
 - (3) 取り組み状況
 - ①事前学習の内容、②学校内の体制、③時間数、④児童・生徒に伝えたいこと、学んでほしいこと
 - (4) 取り組みの結果
 - ①児童・生徒に見られた変化、②事後学習の内容
 - (5) 取り組みの問題点や課題
 - (6) 今後取り組んでみたい福祉教育内容
 - (7) 社会福祉協議会への意見要望
4. 調査方法
郵送調査（悉皆調査）
5. 調査依頼日
平成28年3月3日
6. 調査回答期限
平成28年3月25日
7. 調査回答数・回答率
13校（回答率100%）

8. 調査結果

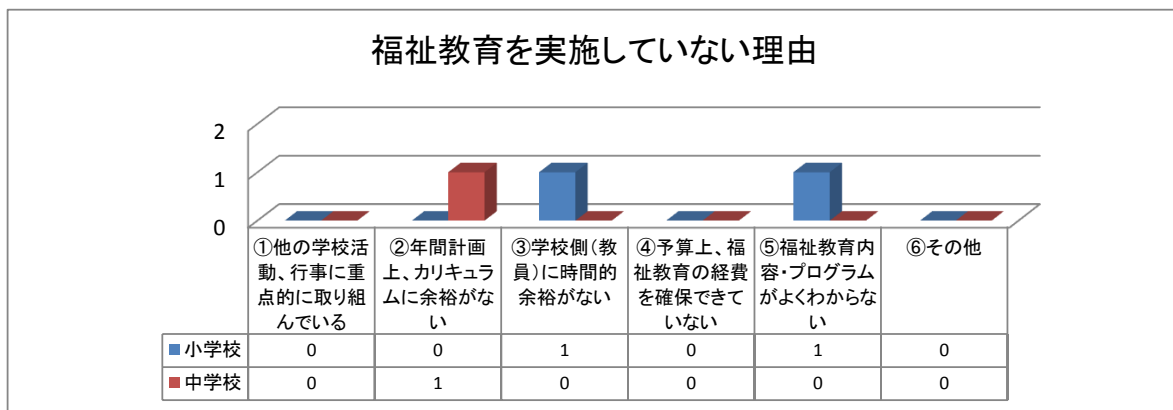
問1. 平成27年度福祉教育実施状況について

	①実施している	②実施していない
小学校	7	1
中学校	3	1
高等学校	1	0
計	11	2



問2. 福祉教育を実施されていない理由（未実施校のみ、複数回答可）

	①他の学校活動、行事に重点的に取り組んでいる	②年間計画上、カリキュラムに余裕がない	③学校側（教員）に時間的余裕がない	④予算上、福祉教育の経費を確保できていない	⑤福祉教育内容・プログラムがよくわからない	⑥その他
小学校	0	0	1	0	1	0
中学校	0	1	0	0	0	0
計	0	1	1	0	1	0



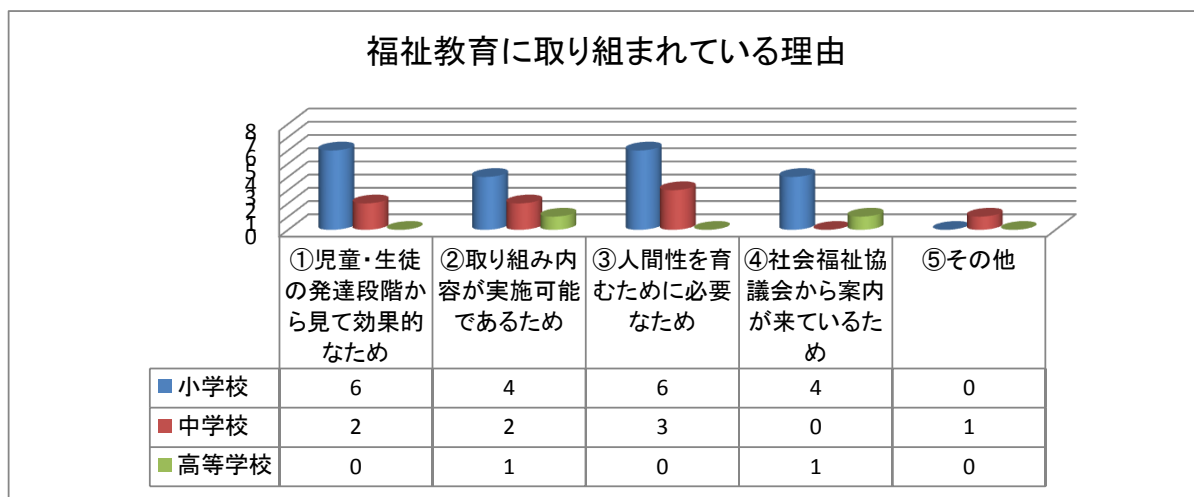
社協コメント

福祉教育未実施2校の上記理由を踏まえて、今後は学校へ直接赴き、福祉教育事業の必要性を説明しながら、児童生徒の社会福祉の理解と関心を高めていけるよう、学校と社協はもちろん、教育委員会等の関係機関と連携しながら、町内全校で福祉教育が実施できるようコーディネートしていきます。

問3. 福祉教育に取り組まれている理由（複数回答可）

	①児童・生徒の発達段階から見て効果的のため	②取り組み内容が実施可能であるため	③人間性を育むために必要なため	④社会福祉協議会から案内が来ているため	⑤その他
小学校	6	4	6	4	0
中学校	2	2	3	0	1
高等学校	0	1	0	1	0
計	8	7	9	5	1

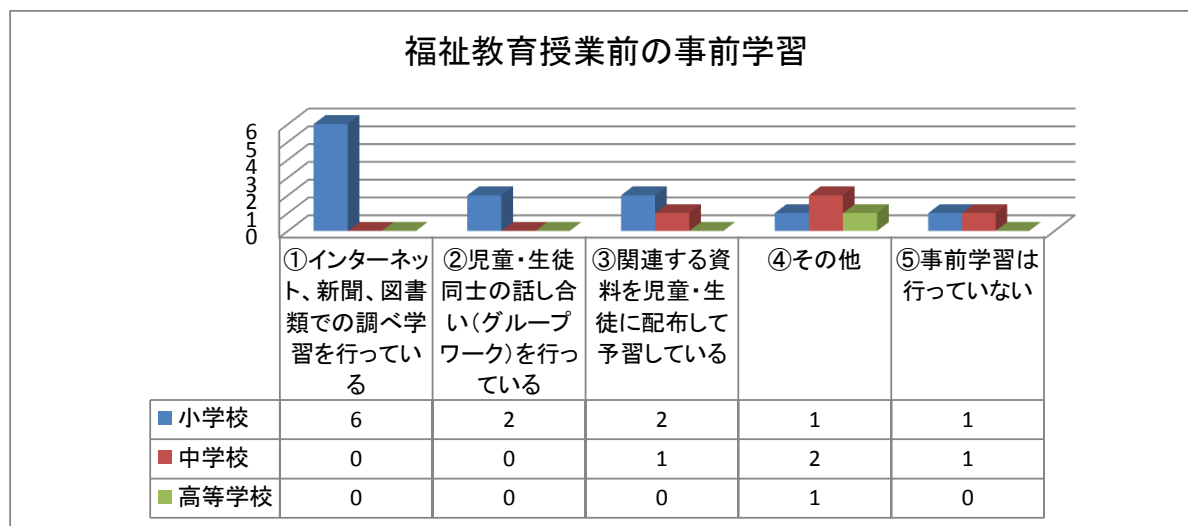
⑤その他の内訳 聾学校との交流会のため（手話体験）



問4. 福祉教育授業前の事前学習について（複数回答可）

	①インターネット、新聞、図書類での調べ学習を行っている	②児童・生徒同士の話し合い（グループワーク）を行っている	③関連する資料を児童・生徒に配布して予習している	④その他	⑤事前学習は行っていない
小学校	6	2	2	1	1
中学校	0	0	1	2	1
高等学校	0	0	0	1	0
計	6	2	3	4	2

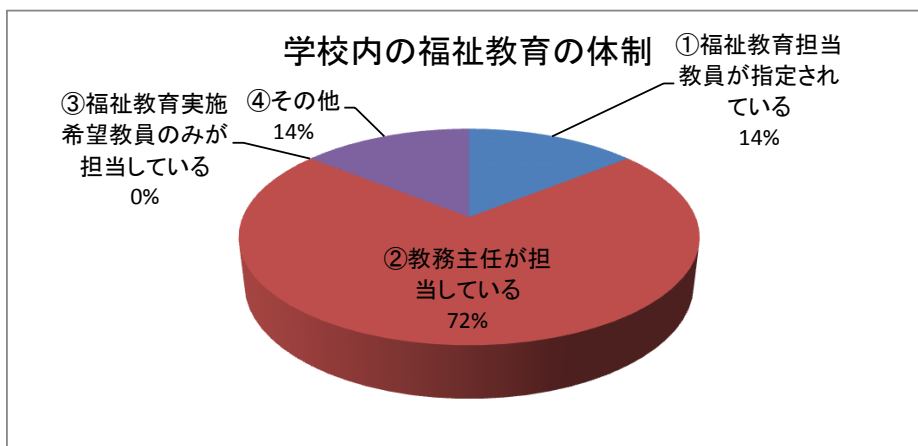
④その他の内訳
 （小学校） ・教科学習で勉強している場合もある。
 （中学校） ・聾学校との交流会前の手話教室。
 ・ボランティアについて（総論）の授業を行った。
 （高等学校） ・家庭科「生活と福祉」選択授業で、または課題研究の一部として。



問5. 学校内の福祉教育の体制について

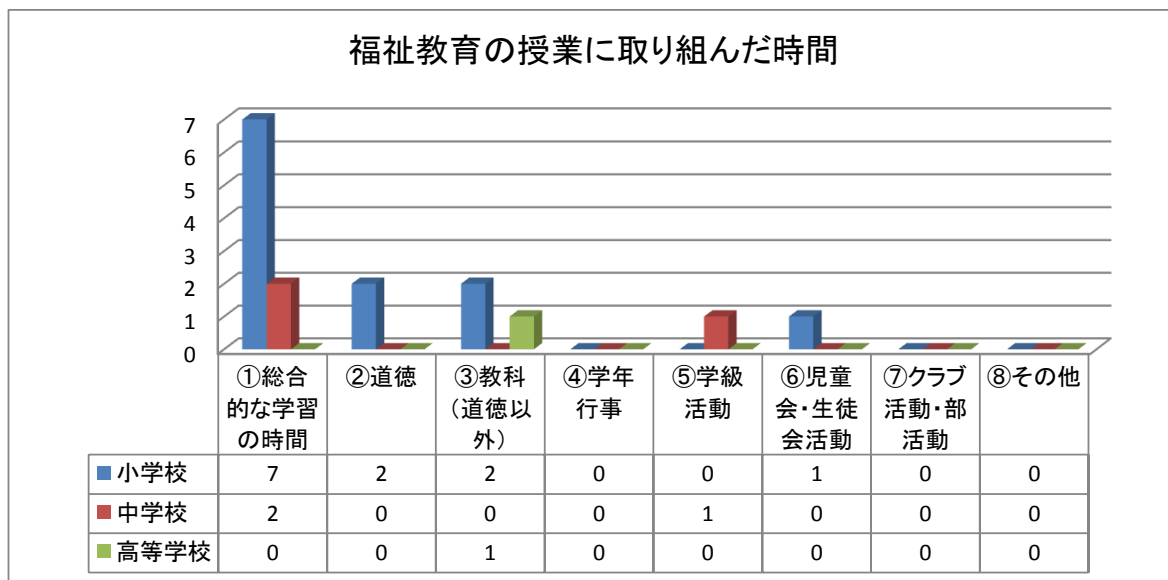
	①福祉教育担当教員が指定されている	②教務主任が担当している	③福祉教育実施希望教員のみが担当している	④その他
小学校	1	5	0	1
中学校	1	1	0	2
高等学校	1	0	0	0
計	3	6	0	3

④その他の内訳 (小学校) ・教務主任と研修主任が担当
(中学校) ・保健主事
・学年主任



問6. 福祉教育の授業に取り組んだ時間について（複数回答可）

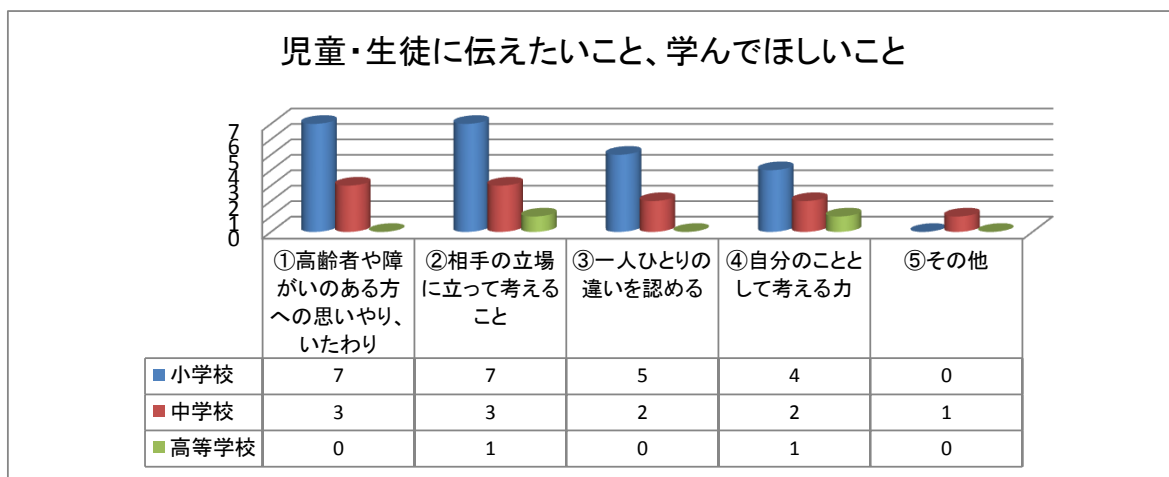
	①総合的な学習の時間	②道徳	③教科（道徳以外）	④学年行事	⑤学級活動	⑥児童会・生徒会活動	⑦クラブ活動・部活動	⑧その他
小学校	7	2	2	0	0	1	0	0
中学校	2	0	0	0	1	0	0	0
高等学校	0	0	1	0	0	0	0	0
計	9	2	3	0	1	1	0	0



問7. 福祉教育を通じて学校側が考える児童・生徒に伝えたいこと、学んでほしいこと
(複数回答可)

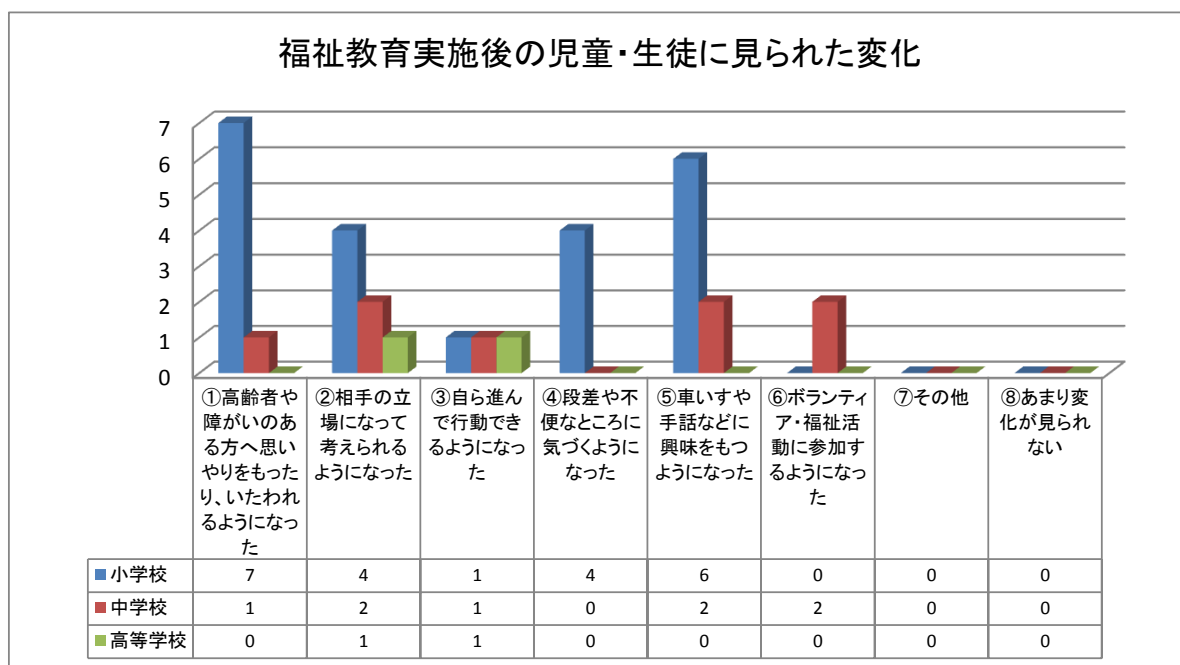
	①高齢者や障がいのある方への思いやり、いたわり	②相手の立場に立って考えること	③一人ひとりの違いを認める	④自分のこととして考える力	⑤その他
小学校	7	7	5	4	0
中学校	3	3	2	2	1
高等学校	0	1	0	1	0
計	10	11	7	7	1

④その他の内訳 (中学校) ・社会への所属意識の高揚



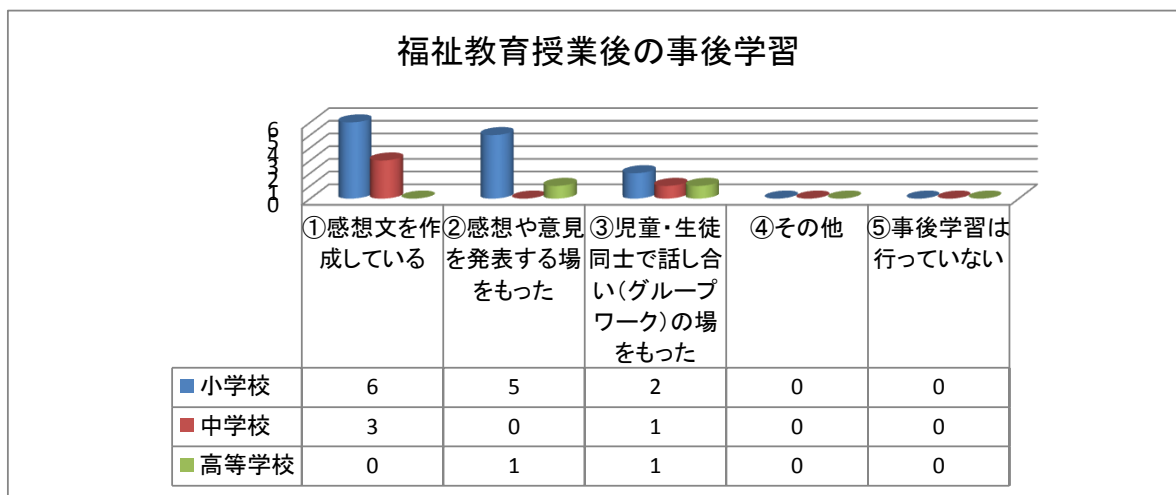
問8. 福祉教育実施後の児童・生徒に見られた変化について (複数回答可)

	①高齢者や障がいのある方へ思いやりをもったり、いたわれるようになった	②相手の立場になって考えられるようになった	③自ら進んで行動できるようになった	④段差や不便なところに気づくようになった	⑤車いすや手話などに興味をもつようになった	⑥ボランティア・福祉活動に参加するようになった	⑦その他	⑧あまり変化が見られない
小学校	7	4	1	4	6	0	0	0
中学校	1	2	1	0	2	2	0	0
高等学校	0	1	1	0	0	0	0	0
計	8	7	3	4	8	2	0	0



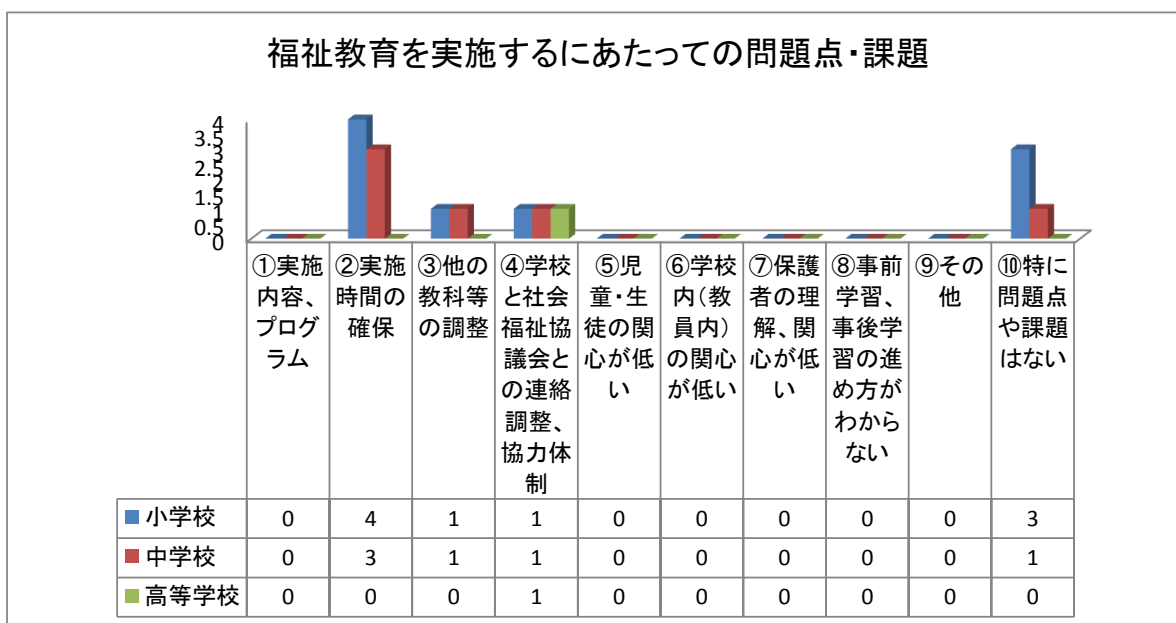
問9. 福祉教育授業後の事後学習について（複数回答可）

	①感想文を作成している	②感想や意見を発表する場をもった	③児童・生徒同士で話し合い（グループワーク）の場をもった	④その他	⑤事後学習は行っていない
小学校	6	5	2	0	0
中学校	3	0	1	0	0
高等学校	0	1	1	0	0
計	9	6	4	0	0



問10. 福祉教育を実施するにあたっての問題点や課題について（複数回答可）

	①実施内容、プログラム	②実施時間の確保	③他の教科等の調整	④学校と社会福祉協議会との連絡調整、協力体制	⑤児童・生徒の関心が低い	⑥学校内（教員内）の関心が低い	⑦保護者の理解、関心が低い	⑧事前学習、事後学習の進め方がわからない	⑨その他	⑩特に問題点や課題はない
小学校	0	4	1	1	0	0	0	0	0	3
中学校	0	3	1	1	0	0	0	0	0	1
高等学校	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	0	7	2	3	0	0	0	0	0	4



社協コメント

福祉教育を実施するにあたっての問題点・課題として最も多かった事項として、②実施時間の確保が挙げられた。③他の教科等の調整や④学校と社会福祉協議会との連絡調整、協力体制を問題点・課題として挙げた学校があることと関連させ、今後は事前・事後における学校と社協との打ち合わせを密にしながら、福祉教育が他教科学習と融合できるように連絡調整をしていく。

問11. 今後取り組んでみたい福祉教育内容について（複数回答可）

	小学校	中学校	高等学校	計
①高齢者疑似体験	6	1	0	7
②アイマスク体験	5	2	1	8
③屋内・屋外車いす体験	5	2	1	8
④手話体験	6	1	1	8
⑤点字体験	6	1	0	7
⑥介護体験	1	1	0	2
⑦ボランティア体験	2	2	0	4
⑧盲導犬を知る！	5	0	0	5
⑨福祉施設の訪問・交流	2	1	0	3
⑩心の健康教室	2	0	0	2
⑪高齢者や障がい者との交流、学校への招待	2	2	1	5
⑫地域のひとり暮らし高齢者宅訪問	0	0	0	0
⑬高齢者や障がい者等へ手紙を書く	3	0	0	3
⑭障がい者等当事者の講演会	0	0	0	0
⑮福祉に関する制度についての講義	0	1	0	1
⑯ボランティアについて（災害ボランティア）の講義	0	0	0	0
⑰子どものための金融教育	1	0	0	1
⑱赤い羽根共同募金についての講義	0	2	0	2
⑲まちの探検（バリアフリー調査等）	1	0	0	1
⑳DVDや書籍を用いた視聴覚学習	0	0	0	0

社協コメント

今後取り組んでみたい福祉教育内容は、高齢者疑似体験や車いす体験等『体験型』プログラムが全体的に多く占めている。特に小学校ではそのことが顕著となっている。

上記結果を踏まえて、子ども達の成長・発達過程に合わせた学習ができるように、学習内容をアレンジしていき、単発的な体験で終わることのないよう、学校側との連絡調整を密にしていく。

また、一部プログラムを参観日や研究授業で実施した学校もあることから、今後は子ども達はもとより、教職員や保護者が関わりながら、子ども達が福祉の心を育むことができるような関係構築を進めていく。

問12. 福祉教育・ボランティア活動を進めるにあたって、社会福祉協議会への意見・要望
(自由記載)

(1) 小学校

- ・今年度初の取り組みでしたが、こちらの要望にいろいろ対応していただきましてありがとうございました。
28年度もどうぞよろしくお願いいたします。
- ・27年度は大変お世話になりました。学校の子供達に還元されるお金の使い方をされていて、すばらしく思いました。またよろしくお願いいたします。
- ・いつもお世話になり、子供達もとてもいい体験ができております。
28年度もよろしくお願いいたします。
- ・毎年お世話になっていて、たいへん感謝しております。
これからも継続していければと思っております。
- ・こちらの要望にいつも迅速に対応してくださり、ありがとうございます。
- ・毎年、3年生以上の学年が、総合的な学習の時間に、福祉に関する活動を計画し社会福祉協議会のプログラムを使わせていただいています。
学校だけでは準備できない物や、指導してくださる方々を手配してくださるのでたいへん助かっています。
子供達も興味をもって学習に取り組むことができますので、28年度以降も、協議会のプログラムを利用させていただきたいと考えています。

(2) 中学校

- ・年間の行事等に組み込んでいくのは難しいため、幼稚園や保育園のボランティアの時と同じように案内をいただくことができれば、土日や長期休業中にボランティアを募り、参加することが可能だと思います。
- ・今年度は大変お世話になりました。生徒、教員もいろいろ勉強になりました。
ありがとうございます。

社協コメント

平成27年度の福祉体験学習は、新たに2校(小学校1校、高等学校)が実施し、年々町内各校の福祉体験学習が定着している状況である。

福祉体験学習未実施校でも、委員会活動等を通して保育園行事での運営ボランティアや資源回収、さまざまな形で福祉に興味関心を持ちながら関わっていることから、今後は町内全校で福祉体験学習が展開できるよう、学校側へのアプローチを進めていく。

具体的には、日頃から社会福祉協議会の認知度を高めるために社協情報「ふくしのはあと」やホームページ等の情報発信を強化していきながら、学校と社協とのつながり作りをしていく。

また、福祉体験学習自体が単発的にならないよう、福祉体験学習を通して子供の頃から地域内のさまざまな課題に気づき、世代の枠を越えて解決に向けて主体的に取り組むことができるよう、社協の中間支援機能とコーディネート機能を発揮していく。